



足柄上地区在宅医療・介護連携センターだより ⑨ 医療と介護の連携により
 住み慣れた足柄上地域で 自分らしい暮らしを最期まで続けられるように！

地域講演会

南足柄市文化会館小ホール

支える側が支えられるとき

～認知症の母が教えてくれたこと～

令和6年2月4日開催

藤川幸之助先生、長崎より来たる!!

足柄上地区在宅医療・
 介護連携支援センター
 支える側が
 支えられる
 とき
 藤川幸之助
 2024.11.11



図書の紹介

ご講演いただいた藤川先生のご著書

講演会当日に取り扱いましたご著書を
 紹介します。

●最新刊・エッセイ集

『母はもう春を理解できない』

(harunosora)

●自選詩集

『支える側が支えられ生かされていく』

(致知出版)

●絵本 こどもにつたえる認知症

①『赤ちゃん キューちゃん』

②『おじいちゃんの手帳』

③『一本の線をひくと』

④『赤いスパゲッチ』

⑤『じいちゃん、出発進行!』

(クリエイツかもがわ)

●『徘徊と笑うなかれ』

(中央法規)

ほか多数

◆藤川幸之助先生(詩人・児童文学作家)は、認知症の母親の介護経験をもとに、命や認知症を題材にした作品を作り続けています。また、認知症への理解を深めるため全国各地で講演活動を行い、介護の大変さ、喜び、気づきを伝えています。

講演では、詩の朗読もあり、講師の家族一人ひとりの思いと人生が語られました。そこから得るものは大きく、参加者がそれぞれの立場で、命・暮らし・家族を支えるということを改めて自分自身に問いかける機会となりました。

藤川幸之助先生のメッセージ「母は60歳の時アルツハイマー型認知症と診断され、84歳で亡くなりました。認知症を患ってからの24年間の母の心の不安、忘却への恐怖、病気による混乱とそれを支えた家族の心の葛藤を通して、認知症という病気や介護について、詩の朗読を交えてお話しします。母の介護の日々を振り返ると、母を支えていたと思ってきた私が、実は母に精神的に支えられ、育てられていたと深く感じるのです。」(参加者117人)

「足柄上地区介護の日のイベント」

—11月11日(いい日・いい日)は介護の日—

介護の魅力を伝える!!

令和5年11月11日開催

情報提供・チラシの配布・足柄上地区1市5町の介護保険・介護予防関係資料展示、配布、定例相談会の周知・関係団体の紹介、事業の紹介、在宅療養に役立つ各種冊子の配布 ほか ②「福祉機器等の展示」

③「介護の魅力が伝わる映画(ドキュメンタリー映画「僕とケアニンとおばあちゃんたちと。」)等の上映

(参加人数 展示等参加団体数 37 展示会場来場者数 66 行政・展示等関係者 21 名 小計 87 人

ドキュメンタリー映画等鑑賞者数 3本延べ 35 人

◆在宅医療と介護をつなぎ、高齢者の「自分らしい暮らし」を支援する一環として、高齢者の介護サービスや介護予防、在宅医療、認知症やその予防、高齢者の地域活動に関する普及啓発を目的として、開催しました。(会場 大井町生涯学習センター / 定例イベント化)
 内容は、①「介護の日パネル・ポスター展示」
 ・高齢者介護サービス事業所が取り組んでいる活動や事業の紹介 介護サービス事業所の



計 延べ 122 人)



地域映画上映会 改め
「シネマエデュケーション」
会場:大井町生涯学習センターホール
を定例開催します。

第1回 「いのちの停車場」
いい看取り・看取られの日によせて
令和5年11月30日(木)
(参加者 156人)
第2回 「痛くない死に方」
令和6年3月30日(土)
第3回 「最高の人生の見つけ方」
令和6年7月30日(火) 予定



自分が希望する医療やケアを受けるために、大切にしていることや望んでいることを、信頼する人たちと話し合うことはありますか。私たちは、やがて来る“その日”をその人らしく迎えるために、何ができるのでしょうか。在宅医療・介護は、ご本人とご家族の想いを叶える一つの方法です。『最後まで自分らしく生きること』を一緒に考えていきましょう。

専門職(多職種)研修会
足柄上地区合同庁舎

令和5年度足柄上地域の在宅医療・介護連にかかる専門職(多職種)研修会を、「あしがらケアマネジャー連絡会」と合同企画し、小田原保健福祉事務所足柄上センターと共催しました。

- 1 日時 令和5年10月20日(金) 参加者 41人
「メンタルヘルスを保ちながら相談援助をおこなっていくために」
講師 川崎こころのケアセンター センター長 稲富 正治 氏
- 2 日時 令和5年12月14日(木) 参加者 55人
「高齢者虐待防止 ～高齢者の権利擁護の視点から～」
講師 かながわ高齢者あんしん介護推進会議虐待防止部会 委員 西田 統 氏
- 3 日時 令和6年2月20日(火) 参加者 29人
「適切なケアマネジメント ～ICFをプランに活かす～」
講師 医療法人社団 帰陽会 老人保健施設 にじの丘足柄 / 宙訪問看護ステーション リハビリテーション科 科長 船橋 庄司 氏

医療・介護地域連絡会の紹介

足柄上病院地域医療連携室共催
年6回(奇数月第3金曜日)定例開催
年間テーマ:「在宅医療・介護連携の推進に向けて(入退院支援・療養支援・急変時の対応・看取り支援)」

地域の専門職の登壇による講義やパネルディスカッションなど行い、情報提供、情報共有に努めています。小田原薬剤師会、神奈川県西地区リハビリテーション協議会にもご協力をいただきました。内容は、①ポリファーマシーについて考える ②独居や日中独居、認知症のある方の在宅支援「服薬管理の視点から」 ③「介護施設、それぞれのお看取り」～現状と課題及び医療機関との連携～ ④高齢者の急変時の対応「高齢者の救急搬送を考える」 ⑤病院と地域のつながり リハビリテーション専門職連携と多職種連携 急性期、回復期、そして生活期 ～在宅時々入院、途切れないリハビリテーションを！～ ⑥限られた資源で自宅への退院を選択せざるを得ない患者家族への退院支援～家族看護の視点で考える～ でした。延べ参加者数 244人

感染症対策研修会に『手洗いチェッカー』を利用しませんか。

令和6年度の介護報酬改定に伴い、介護保険事業所には、業務継続計画(BCP)の策定が義務付けられています。業務継続計画(BCP)は災害対策と感染症対策に分かれています。業務継続のために、日頃からのシミュレーションが重要です。

新型コロナウイルス感染症は5類となりましたが、ノロウイルス、インフルエンザ、食中毒等の感染症予防には、施設、事業所等において万全の対策を講じていかなければなりません。感染症予防は、意識を高めて実践していくことが大切です。



足柄上地区在宅医療・介護連携支援センターでは、日々繰り返し行っている手洗いが有効になされているかを確認することができる「手洗いチェッカー」を貸し出しています。ご予約の上、ご活用ください。足柄上医師会のホームページに借用書等一式を掲載しています。

足柄上地区在宅医療・介護連携支援センター Tel0465-43-8172